

---

# 僕の女神様

koto

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

僕の女神様

### 【コード】

N0904T

### 【作者名】

koto

### 【あらすじ】

少し甘くて少し苦い、青春のお話。

## 幼馴染な僕ら

彼女は、女神だと思うんだ。

「おはよう、ハル」

いつも一番に僕を見つけて、一番に声をかけてくれる。  
容姿端麗成績優秀、まさに『才色兼備』な彼女。

そんな彼女は、僕の幼馴染。

「おはよ、リン」

「今日遅かったね。寝坊？」

微笑みながら近付いてくる彼女の名前は松平凜。

幼稚園から高校二年生の現在までクラスが離れたことがない僕らは、  
思春期にも関わらず大の仲良し。

一番近い友人であり、家族のような存在だ。

「ん、昨日寝るの遅かったから…」

「ふふ、ほんとに眠そうだね。授業中は寝ちゃだめよ？」

「分かってるー…」

机に突っ伏した僕を見ておやすみ、と囁いた彼女は、他の友人のものとへ向かったようだ。

暖かな春の陽気に誘われ、僕は意識の底へと落ちて行った。

「陽斗ー、HR始まるぞ」

肩を揺すられ、重い瞼をゆっくり開く。

体を起こすと、机の傍らに友人の三浦亘（わたる）が立っていた。

「おはよ、亘」

「おう。どうした？かなり眠そうだけど」

「寝不足。ああ…眠い」

大きな欠伸をする僕を見て、亘は首を傾げた。

「何してたんだよ？昨日は課題なかったよな」

「本読んだり…筋トレしたり」

「お、出たよ筋トレ馬鹿」

「うっせ」

ほどほどになー、と言いながら自席へ戻る亘を見送ると、タイミン  
グよく教室の扉が開いた。

「おっはよー！今日も全員いるねー」

出席簿で肩をトントンと叩きながら入ってきた担任は、笑顔で教室  
を見渡す。

教壇に荷物を置き連絡事項を話し終えると、何故か僕に視線を向け  
た。

「明知は終わったら職員室ね」

「なんか用事ですか？」

『陽斗なんかしたのかー？』

「なんもしてねー」

からかうように言うクラスメイトを軽くあしらい、教室を出た担任を追う。

いってらーというクラスメイト達の声に返事をしたあと、職員室目指して歩き出した。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n0904t/>

---

僕の女神様

2011年10月9日02時25分発行